

■6月のおすすめ本

梅雨になり雨が多い季節になりました。家から出られないときに読書をしましょう。

*図書室にあります	(図書委員のおすすめ)		
	アルルカンと道化師		
	池井戸 潤	P344	文庫
	講談社	2020年	
	半沢が東京中央銀行大阪西店の副融資課長に就任して間もない頃。ある美術系出版社の買収案件が持ち込まれます。大手IT企業がその会社を買収したいという裏側には、絵画「アルルカンとピエロ」が関わっていました。半沢はこの絵の謎を解き明かし、買収の裏に隠されていた真実を暴きます。		
	。		

*図書室にあります	(図書委員のおすすめ)		
	変な家		
	雨穴	P244	文庫
	飛鳥新社	2021年	
	奇妙な間取りの古家にまつわる謎を解き明かすミステリー作品です。 オカルト専門のライターである雨宮は、知人から奇妙な間取りの古家を紹介されます。 その家は、一見普通に見えますが、随所に不可解な点が存在していました。		

*図書室にあります	(図書委員のおすすめ)		
	日本人には永遠に中国人を理解できない		
	孔 健	P233	文庫
	講談社	1996年	
	転んでもただで起きない中国人とお人好しの日本人はつきあっていけるのか!? ほとんどの日本人は中国人は欧米人よりはずっと理解しやすいと誤解している。この先入観がさまざまなトラブルの素となっているのである。		

*図書室にあります	(図書委員のおすすめ)		
	下町ロケット		
	池井戸 潤	P407	文庫
	小学館	2010年	
	宇宙科学開発機構の研究者としてロケット事業に取り組んでいた航平(阿部寛)は、7年前の打ち上げ失敗の責任を取って退職し、父親が遺した佃製作所を継ぐことに。		
	経営難が続く会社に対し、得意先から取引の中止、銀行にも融資の打ち切りを告げられ、倒産の危機に直面する。そんな中、特許侵害で訴えられてしまう。		

*図書室にあります	(図書委員のおすすめ)		
	魔女と過ごした七日間		
	東野 圭吾	P410	文庫
	KADOKAWA	2023年	
	AIによる監視システムが強化された日本。指名手配犯捜しのスペシャリストだった元刑事が殺された。「あたしなりに推理する。その気があるなら、ついてきて」不思議な女性・円華に導かれ、父を亡くした少年の冒険が始まる。		

*図書室にあります	先生方のオススメ		*図書室にあります
重 友香莉先生のオススメ		小杉 健作先生のオススメ	
この作品は、ホラーな作風のウェブ作家「雨穴」の2作目の書籍です。一見関係性のないように見える複数の「変な絵」ですが、章を進めるごとにその絵が意味する恐ろしい事実が浮き彫りになっていきます。点と点が少しずつ線になって、ゾッとするような事件の真相が明らかになります。絵がヒントになっていて読みやすく、動画とは違った面白さがあります。ミステリーやホラーが好きな方におすすめです。		迷宮に住むネズミと小人。大きなチーズを見つけ、快適な生活を送っていたが、ある日突然チーズがなくなっていました。必死にチーズを探し回り、何とか難局を乗り切ろうとします。 単なる物語なのですが、状況の変化への対応について考えさせられる本書は各国でベストセラーになり、ペンツやアップルの社員研修にも活用されています。たった96ページの短い本なので、時間を見つけて読んでみてください。	
	変な絵		チーズはどこへ消えた？
	雨穴		スペンサー ジョンソン
	双葉社		扶桑社
	2022年		2000年
	285ページ		96ページ